

平成30年度 第3回 学校運営協議会

日 時 平成31年2月22日（金） 15：15-17：00

場 所 大阪府立中央聴覚支援学校 高等部4F会議室

1 開会

2 学校長挨拶

3 学校の様子について

- ・各部の取り組みについて報告

4 議事

①平成30年度学校経営計画及び学校評価（最終評価）案 について学校長より説明

<委員からの意見・質問>

- ・学校教育自己診断の回収率は52%とあるが、何も不満がないから出していない場合が考えられるので、そこも考慮する必要がある。
- ・進路指導について、中学部のクラス分けについても幼稚部や小学部の頃から情報として知る必要がある。保護者のアンケート回収率が68%であることについては、小さい子どもの保護者はまだわからなくて答えられないこともあるのではと思う。
- ・「担任以外にも相談できる」の回答が53%であるのは、一般の会社で例えれば、上司に相談する時、相談でなく指導になってしまうことがある。友達のような雰囲気先生なら「相談に行こう」という傾向になると考えられるが、先生は指導者であるので、厳しく接することが必要でもある。数値だけでは判断できない。
- ・ろう難聴の子どもは、就労現場等でも基本的に相談できる相手が少ない。家族や学校の先生で相談できる人は多い方がいい。困ったことや自分に必要な支援を説明することができない人がいる。いろいろな人に相談しながら、困った時に乗り越えていく体験も積み重ねることが必要。

(校長より)

アンケート結果の数字を出すだけでは詳しい実態把握ができないので、アンケートの内容やきき方を、答えやすいように改善していく。

②本年度の取組内容及び自己評価 について学校長より説明

<委員からの意見・質問>

- ・学期ごとに各部の取り組みを紹介してもらっているが、授業中の子どもの様子の報告をしてもらえると、学校の状況や子どもの様子がより理解しやすくなる。
→ (校長より) 次年度は行事だけでなく授業を中心に紹介したい。また、オープンスクールなどで、部を越えた共通のテーマ（例：「安全に関する取り組みの学習」）での保育・授

業も実施できればと思う。

- ・研究授業35回はすごいと思う。保護者の満足度は87%であるが、心理士の立場から言う
と逆に100%達成は懐疑的となってしまう。8割9割の達成で十分ではないかと考える。
支援相談件数が減ったという数字が出ているが、一度相談したケースがまたすぐに相談する
ということはあまりない。件数だけで評価するのではなく「相談が役に立ったかどうか」と
いう観点を入れる必要がある。
- ・最近の先生方の手話力は向上していると感じる。学校として何か取り組まれているか。
→（校長より）聴覚障がい教員が核となって、授業中の手話研修を実施している。ろうあ会
館より講師を招いて手話講習会も実施している。新転任者は、最初は筆談などコミュニ
ケーションの工夫をすればよい。研修や生徒との会話の中で教員も次第に手話を使える
ようになっている。
- ・授業中の手話研修を実施している学校は全国的にみても数校しかない。けれども、「手話がで
きる＝子どもとコミュニケーションがとれる＝教科指導ができる」ということではなく、教
科指導に関心をもつことが大切である。
- ・地域でも、さまざまなアンケートをとることがあるが、アンケートは尋ね方によって答え方
がかわる。数字だけでなく、内容や実績が大切である。

③平成31年度学校経営計画及び学校評価 案 について校長より説明

5 その他

学校関係者評価シートの記入について委員へ依頼

6 事務局より連絡

今後の予定について

7 閉会